

# 令和6年度 江東中学校経営方針

令和6年4月22日 PTA 総会 校長

## 1、江東中教育の基盤

校訓：『自主・連帯・創造』

学校教育目標

『挑戦と協働』

～つながりを大切にしながら、心豊かに、新たな時代を拓く生徒の育成～

【目指す生徒像】

- 自主 「よく考え、自分からものごとに取り組む生徒」(学力)
- 連帯 「認め合い、つながり合って、共に伸びる生徒」(人間力)
- 創造 「よりよい生活を創り出そうと行動する生徒」(社会力)

【目指す教職員像】

- (1) 生徒理解を基盤にし、協働による教育活動を進める教職員
- (2) 自己の役割と責任を果たし、対話による組織作りを進める教職員
- (3) 柔軟性をもって学び、変化を受け入れ専門性の向上に努める教職員
- (4) 保護者、地域の期待と信頼を尊重する教職員



生徒会の合い言葉

「誰もが居心地の良い学校」

目指したい江東中学校のあり様

- (1) 自他を大切にできる心を育てる学校 (人権・同和教育の推進)
- (2) これからの社会をよりよく生きるための力を育てる学校 (学力・人間力の育成)
- (3) 安全・安心で地域から信頼される学校 (危機管理・学校機能の強化)
- (4) ふるさとへの愛着と誇りを育てる学校 (ふるさと教育・キャリア教育の充実)

## 2、令和6年度の学校づくりの柱

### □ 柱その1 『授業づくり』

①『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業改善の工夫と実践および授業研究』

重点その1 I. C. T機器(タブレット=ツール)の積極的な活用の推進と分かる授業づくり

- ・めあての設定(学習課題)と振り返りの充実
- ・積極的な自己表現活動の充実
- ・学習課題や思考の見える化(思考ツールの活用と工夫)
- ・協同学習による主体的な学習集団づくり

重点その2 道徳及び総合的な学習の時間の充実と整理

- ・「道徳」指導項目の完全実施
- ・「総合的な学習の時間」指導内容の焦点化と整理

## □ 柱その2 『組織的な生徒指導・生徒支援・集団づくり』

人権教育を基盤として

### ①《生徒の主体性と社会性を育む積極的な生徒指導の推進》

#### 重点その1 「複数担任制」による学級・学年集団づくりの推進

- ・担任としての責任感の共有と教員の相互理解の促進
- ・対話による学年部会の充実と持続可能な学級・学年経営の仕組みづくり
- ・日常の情報の共有と生徒理解の複線化及び多視点化の促進(教育相談)
- ・保護者連携の見える化と組織化の促進(抱え込みの抑制)

#### 重点その2 基礎学力の育成と学習習慣の確立および健康で安全な生活習慣の確立

- ・放課後学習会(KST、学年学習会)の充実と個別の学習指導/支援の推進
- ・安全指導の徹底と基本的で計画的な保健指導(メディア指導、性に関する指導を含む)の推進

#### 重点その3 保護者や地域、小学校との積極的な連携

- ・積極的な授業公開やHP、各たよりによる保護者及び地域への情報公開

### ②《生徒の主体性と社会性を育む生徒会活動・学校行事の改善と工夫》

#### 重点その1 持続可能な委員会活動の精選と生徒会行事の見直し

- ・持続可能な各委員会活動の推進と生徒会リーダーの育成
- ・生徒会行事の見直しによる新たな江東中生徒会の育成

#### 重点その2 協働作業による見直しをもった生徒会の運営と改善

- ・計画に基づく生徒の主体性、協働性を育てる生徒会活動
- ・全ての生徒が活躍できる場と機会の設定による集団づくり

### ③《特別支援教育の組織的な推進》

#### 重点その1 専門機関(教育委員会、医療、福祉等)と連携した支援の充実と理解教育の充実

- ・専門的知見に立った適切な実態把握と見立てによる支援
- ・個別の支援計画の作成と個別指導の充実
- ・丁寧で根気強い保護者との連携と、具体的に組織的な相談の実施

## □ 柱その3 『元気ができる働き方』

### ①《働き方改革の見える化と意識化》

#### 重点その1 担当業務の整理と優先順位付け(ツールの利用、スケジュール管理)

- ・計画年休の取得(見直しをもって2連休を入れる、誕生日に年休を取得するなど)
- ・複数担任制による「時間年休」積極的取得の試み

### ②《服務規律の確保》

#### 重点その1 個々の人権意識の高揚と日頃のコミュニケーションを大切にした教職員集団づくり

- ・セクハラ、体罰、不適切な指導等、事案の伝えとタイムリーな校内研修の実施
- ・対話力を基盤にした相互抑止機能が働く組織づくり

## 3、おしまいに ～「子育て四訓」子どもの成長と親の接し方 時々思い出す名も知らぬ先輩の言葉～

乳児はしっかり肌を離すな 赤ちゃんはしっかり抱かれることで安心し、人を思いやる心を形成する。

幼児は肌を離せ 手を離すな 完全に手を離すのではなく、常に傍に親がいる安心感が自立への第一歩。

少年は手を離せ 目を離すな 社会性が育つ少年期はしっかり手を離し、活動範囲を広げてやる。しかし、危険があるので目を離さない。反抗も成長の過程。親として逃げずに、共に成長することを心掛ける。

青年は目を離せ 心を離すな 自分なりの生きがい、進路に進んでいくときだが、心を寄せることは続けていく。